

一般財団法人市川市福祉公社

令和元年度第1回 介護・医療連携推進会議 議事録

1. 日 時： 令和元年5月21日（火） 午前10時00分～午前11時00分
2. 場 所： i-link ルーム 2会議室
3. 出席者 27名

〔委員〕

議長 高久 悟
委員 小笠原 一彦
四ツ屋 真由美
村尾 薫

以上 委員 4名

〔オブザーバー〕

市川市福祉部福祉政策課 1名
高齢者サポートセンター市川第一 1名
高齢者サポートセンター市川第二 1名
高齢者サポートセンター市川東部 1名
高齢者サポートセンター菅野・須和田 1名
高齢者サポートセンター真間 1名
高齢者サポートセンター曾谷 1名
高齢者サポートセンター信篤二俣 1名
高齢者サポートセンター国府台 1名
高齢者サポートセンター八幡 1名
居宅介護支援事業所 1名
訪問介護事業所 1名

以上 オブザーバー 12名

〔事務局〕

常務理事 林 芳夫
事務局長 今井 真希
事業部長 内野 智美
当該事業管理者 館山 史陽
巡回ヘルパーステーション 主任 豊崎 邦幸
計画作成責任者 澤村 泉 藤田 健治（司会）

以上 事務局 7名

〔公社職員〕

4名

以上 公社職員 4名

■ 開 会

- (1) 委嘱状交付
- (2) 事務局より資料の説明を行う
 - ・令和元年度 第1回 介護・医療連携推進会議資料
 - ・利用者一覧
- (3) 市川市福祉公社常務理事より挨拶
- (4) 委員、オブザーバー紹介
- (5) 事務局紹介

●サービス提供等状況報告・相談受付状況について

<事務局 藤田>

- ・レジュメに沿い H31 年 2 月～4 月の相談件数等を報告した。

<四ツ屋委員>

- ・利用者数は横ばい傾向との事。随時対応が多い時や少ない時はまちまちだろうが、多くなってくると職員の負担も増えると思う。相談状況に関しては、ターミナルケアのケースが増えていないようだが、今後増えていけばいいと思う。

<事務局 館山>

- ・ターミナルケースは 2～3 か月に 1 回程度の相談依頼があるが、お受けしても 1～2 ヶ月でご逝去されるケースが多い。営業活動としては、これまでは居宅介護支援事業所を回っていたが、病院の退院支援担当の看護師に定期巡回について説明し、ケースによるが、在宅でも看取りが可能であることについてアナウンスしている。今後ターミナルケースは増やしていきたい。

<村尾委員>

- ・サービス提供状況は安定していると思う。定期巡回の中で訪問看護が介入しているのは 15 件中 4 件という事だが、訪看のアプローチが必要と思われるケースはあるか。

<事務局 館山>

- ・アセスメントに関していえば、訪問看護より毎月シートの送付があるので、それによって情報を把握している。その内容を確認した上で、訪問回数の調整やケアの変更等を柔軟に行っている。訪問看護の介入がない方でもこのようにアセスメント情報の共有により身体状況を確認しているので現状では問題ない。

<小笠原委員>

- ・夜間は 2～3 名の職員で 30 件程度回られているとの事だが、職員は仮眠が取れているか。

<事務局 館山>

- ・夜勤帯 17 時～9 時の間で原則 2 時間の休憩だが、随時対応が入った場合等は 2 時間をまとめて取ることは難しくなるため、分割して対応している。

<高久議長>

- ・昨年の利用状況と比較しても変化はほとんど無いようだが、安定していると考えるべきか、行き詰まりと考えるべきか。

<事務局 館山>

- ・利用者が最大 18 名の時があったが、バランスを考えるとギリギリの受け入れ人数である。今期は職員を 3 名増加し利用者の増加も見込んでおり、お断りすることなく対応し

ていきたい。

●事例検討及び事例報告

①事例検討

<事務局 豊崎>

- ・レジュメに沿い事例検討内容を発表した。

<高久議長>

- ・大変密度の濃いケース。

<村尾委員>

- ・共有のノートを作成し工夫される等しっかりと対応されている。医師との連携はどの様になっているか知りたい。

<事務局 館山>

- ・このケースの場合、当初より往診医は介入しておらず体調不良時には受診されていた。内服薬も無かったので医師との連携は特段無かった。

<四ツ屋委員>

- ・便に鮮血が混じったり、貧血症状もあったようだ。加えて認知症状もあったようなので判断は難しかったかもしれないが、もう少し早めに訪問看護が介入できればと感じた。定期巡回はターミナルケア向きのシステムだと思うので増やしていければいいと感じた。

<事務局 館山>

- ・下血等の症状がみられた際は訪問看護と連携し都度情報共有していた。何より本人が病院に行くことを拒否されていた事に加え、医療側からは高齢であることと検査も望んでいないことから、大きく状態が変わらなければ経過観察していく方向性であることについて共有していたという事も必ずしも適切なタイミングとはならなかった原因だと思う。

<小笠原委員>

- ・1回の訪問時間で約30分程度対応されているとの事。身体的ケアだけではなく精神的なケアについても対応されている事が読み取れた。スキルの高さに感謝している。引き続きお願いしたい。

<高久議長>

- ・家族へは様々な説明が生じるかと思う。終活に関して考えることはあっても、介護に関して考えることはなかなか難しいと思う。介護保険の理解やサービスの理解、経済的な面等での家族の反応はどのようなものか。

<事務局 澤村>

- ・今回のケースでは、夫婦隣同士であったことは大きなメリットであったかと思う。今回については理解を求める前に、本人の「病院に行きたくない」という思いが実現できていることに対してご家族から感謝の意をいただいていたこともあり、スムーズなサービス提供を行う事が出来ていたと思う。

<高久議長>

- ・中身のあるケースだが、高齢者サポートセンターからの意見や質問はあるか。

<国府台>

- ・このような形で最期を迎えることができることが分かった。隣に住んでいた奥様はどの程度の介護力があったのか。

<事務局 豊崎>

- ・奥様も認知症。ご主人に何かあれば報告する程度に限られていた。

<信篤二俣>

- ・共有ノートはCMからの提案との事。情報共有はなかなか難しいのでは？記録する時間等によってかえってロスが出てしまうのでは？

<事務局 豊崎>

- ・飲水量や排泄量、排泄物の性状等、状態変化に伴い情報共有の必要性は高まってきたが共有ノートを活用した主な理由として細かな情報把握の必要があるということが挙げられる。結果そのノートを活用したことが今回の連携を可能にした。以前より簡易のチェックシートは使用していたので時間的なロスは生じなかった。

<市川第二>

- ・介護拒否の対応は大変だったのではないかと。

<事務局 豊崎>

- ・夜中に大声を上げられた際は隣の奥様よりクレームが聞かれたこともあった。ご家族とも相談しながら良い方法を探ったり、落ち着いていただけた時などのケースを職員間で共有し改善に努めた。

●事務局館山より今後の定期巡回随時対応型訪問介護看護事業に関する事柄について市に回答を求めた。

<小笠原委員>

4月に着任したばかりだが、この事業に関して南部地域へのサービスが届いていないことについて話を聞いている。7期計画前では2カ所開設が目標であり公募をかけたが手が上がっていない状況であり課題である。時期をみながら再公募をかける予定である。前期で2事業所が目標であったが1事業所のみであり、その間に1事業所が撤退。当初の見込みから不足している事を認識している。南部地域のニーズは現状把握できていないが当事業含めてアンケート等を行い8期計画を進めていく予定である。

■ 閉会

閉会にあたり事務局より挨拶

- ・次回介護医療連携推進会議予定 令和1年11月19日（火）

上記の通り、委員の方より頂きました、貴重なご意見をもとに今後とも取り組んでまいります。長時間にわたり、ありがとうございました。

以上

文責：市川市福祉公社

事業1課 巡回ヘルパーステーション 藤田